2012 年 9 月 9 日　　愛和外語学院 第 1 回公開ラボ

タイトル　■パターンプラクティスのパターンを創ること

－初級授業デザインの創造性とはなにか－

深江　新太郎　妹川　幸代

１．背景

現在，日本語教育の趨勢は文型シラバスから場面シラバスへの移行している一方，教室活動を通して学習文型の定着を行う必要性があるためパターンプラクティスが必要

２．問題

2.1　パターンプラクティスの問題

学習文型の定着のためにあるパターンプラクティスには次の問題がある

・単調である　　・機械的である　　・考えなくてもよい

パターンプラクティスは結局，文型シラバスでも場面シラバスでも行われ，

パターンプラクティスが上記の問題を持つ限り授業が真に創造的になることはない

2.2　教師の姿勢の問題

パターンプラクティスが「単調で機械的で考えなくてもよい」という問題を持つ根源には次がある⇒教師と教科書が文型と会話例を持ち，学習者はそれを覚え繰り返す

教師は，教科書を開けば「文型と会話例」（パターン）があり，そこに安心する
そして，それを教えようとする　その結果，パターンの持ち主となる

これがパターンプラクティスを単調で機械的なものにする根源

2.3　場面シラバスの典型的な授業展開

導入　場面の提示（ＰＣを用いて）
　　その場面でどんなことを言うか学習者が考える
　　教師は学習者の発話を板書

展開　「文型と会話例」（パターン）の提示
　　教師は学習者の発話を参照しながら，教科書に書かれた「文型と会話例」へ導く
　　そしてその「文型と会話例」を繰り返し練習する（パターンプラクティス）

応用　場面や課題を拡大する
　　「文型と会話例」（パターン）を基にそれを発展的に行える活動を行う

【問題】

教師は，教科書に書かれた「文型と会話例」（パターン）を前提とし，そこへ導き繰り返し練習していること

３．提案

3.1　主張

パターンを“創る”のは学習者である

教室活動は“学習者と教師がパターンを創る過程”である

3.2　提案したい授業の具体例―『できる日本語』を素材に－

2012 年 6 月 11 日　授業記録

（『できる日本語』第 7 課　友達の家で　スモールトピック 1　道がわかりません）

【授業展開】

教師：「日本に来てちょうど 2 カ月目ですね。何か困ったことがありますか。」

学生：「日本語がわかりませんでした」

「物価が高いです」

「道路が分かりません」

「日本の食べ物がおいしくなかったです」

「気候が慣れませんでした」

教師：「日本語がわかりませんでしたは、今、毎日勉強しているから大丈夫ですね。

物価が高いですは、私はどうしようもありません。

日本の食べ物はおいしくなかったです、今はどうですか」

学生Ａ：「今はすこしおいしいです」

教師：「じゃ、よかったですね。

気候がなれませんは、春と秋はいいですが、夏と冬は私も慣れません。

このなかで私が手伝えるのは、これ（道路が分かりません）ですね。」

教師：「4 月のとき、どうしましたか」

学生：「わかりません。どこも行きません」

教師：「今は、どうですか」

学生：「少しわかります。家の近くは分かります」

学生Ｂ：「ぜんぶ、だいじょうぶ」

教師：「キャナルシティは、どこですか」

学生Ｂ：・・・

学生たちが手伝い始めるが、できない

教師：「キャナルシティへ行きたいです。分かりません。どうしますか」

学生Ｂ：「道路を探します」

教師：「どうやって」

学生Ｂ：「日本人に聞きます」

【みんなで考え始める⇒その結果次のことばが学生から出る】

あのうすみません	そこで何でいけばいいですか
キャナルシティは遠いですか	ここはどこですか（地図を見て）
ここからキャナルシティまでどのくらいかかりますか	
そこで近くなんですか	キャナルシティへ行きたいです

学生と教師が創ったパターン

Ａ：あのう、すみません。
Ｂ：はい、なんですか。
Ａ：キャナルシティへ行きたいですが、道がわかりません。
Ｂ：そうですか。
Ａ：ここはどこですか。（自分が持っている地図を見て）
　　キャナルシティは遠いですか。
　　どうやっていきますか。
　　どのくらいかかりますか。
　　キャナルシティはどこにありますか（教師が提示）
Ｂ：―　―　―　―
Ａ：ありがとうございました
　　その後、「〇〇はどこにありますか」にフォーカスして地図以外で練習

教科書が提示しているパターン

１　Ａ：あのう、すみません。交番はどこにありますか。
　　Ｂ：あ、交番ですか。あのビルの後ろにありますよ。
　　Ａ：ありがとうございます。
２　Ａ：もしもし、Ｂさん、今、どこにいますか。
　　Ｂ：交番の前にいます。
　　Ａ：じゃ、そこへ行きます。
３　Ａ：もしもし、Ｂさん、今、どこにいますか。
　　Ｂ：駅の前にいます。
　　Ａ：えっ？近くに何がありますか。
　　Ｂ：大きいスーパーがありますか。
　　Ａ：わかりました。今、迎えに行きます。

４．考察

4.1　場面以前の存在

「　学生　⇒　話題　」という展開

学生　　話題

教師：「日本に来てちょうど２カ月目ですね。何か困ったことがありますか。」

学生：「日本語がわかりませんでした」

「物価が高いです」

「道路が分かりません」

「日本の食べ物がおいしくなかったです」

「気候が慣れませんでした」

場面の前に「困ったこと」という話題がある，「困ったこと」という話題の前に「日本に来てちょうど２カ月」の学生に気づく⇒「学生がいてそこに必要な話題がある」

4.2　場面提示

「場面」は学生たちのやりとりのなかで提示

学生たちとのやりとり

教師：「日本語がわかりませんでしたは、今、毎日勉強しているから大丈夫ですね。
物価が高いですは、私はどうしようもありません。
日本の食べ物はおいしくなかったです、今はどうですか」

学生Ａ：「今はすこしおいしいです」

教師：「じゃ、よかったですね。
気候がなれませんは、春と秋はいいですが、夏と冬は私も慣れません。
このなかで私が手伝えるのは、これ（道路が分かりません）ですね。」

場面の提示

教師：「４月のとき、どうしましたか」

学生：「わかりません。どこも行きません」

教師：「今は、どうですか」

学生：「少しわかります。家の近くは分かります」

学生Ｂ：「ぜんぶ、だいじょうぶ」

教師：「キャナルシティは、どこですか」

学生Ｂ：・・・

「　学生　⇒　話題　⇒　場面　」という順序

4.3　パターンが創られる過程

教師の問いかけから会話例が創られる　　**パターンの創出**

教師：「キャナルシティへ行きたいです。分かりません。どうしますか」
学生Ｂ：「道路を探します」
教師：「どうやって」
学生Ｂ：「日本人に聞きます」

【学生から出たことば】

あのうすみません　　そこで何でいけばいいですか
キャナルシティは遠いですか　　ここはどこですか（地図を見て）
ここからキャナルシティまでどのくらいかかりますか
そこで近くなんですか　　キャナルシティへ行きたいです

4.4　パターンの完成

4.3 の学生から出た文型を基に会話が創られる

パターンの完成

Ａ：あのう、すみません。
Ｂ：はい、なんですか。
Ａ：キャナルシティへ行きたいですが、道がわかりません。
Ｂ：そうですか。
Ａ：ここはどこですか。（自分が持っている地図を見て）
　　キャナルシティは遠いですか。
　　どうやっていきますか。
　　どのくらいかかりますか。
　　キャナルシティはどこにありますか（教師が提示）
Ｂ：―　―　―　―
Ａ：ありがとうございました

５．　総括

「初級授業デザインの創造性とはなにか」に対する私たちの応え

① 場面シラバスの場面以前にある話題を学習者と共有する
② 教科書が提示する文型と会話例（パターン）は一つの例である
③ 学習者は不完全ながらも提示場面で必要とされるパターンを考えられる
④ 教師は学習者とともに提示場面で必要とされるパターンを創る